

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101511		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 みやす二番館		
所在地	岡山県岡山市東区吉井208番地		
自己評価作成日	令和4年3月18日	評価結果市町村受理日	令和4年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和4年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症が長く続くGHでは、感染症を持ち込まないことがサービスの一歩、今一番の目的と自然となっている。したがって二番館の目標、家庭的な温かい生活を毎月のイベントで一時を楽しんでいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社の基本理念に基づいて、事業所目標「皆様がいつも笑顔で楽しく生活できるよう家庭的な暖かい雰囲気を作っていきます。」を掲げ、日々利用者の支援に取り組んでいる。利用者は日常生活において自立している人が多く、一人ひとりの人格を尊重した対応で、自室でテレビを見て過ごすなど自分のペースで自由に暮らしている。利用者の尊厳やプライバシーに配慮した優しい対応を心がけ、利用者や職員が何でも話し合える良好な関係を築いている。職員の自宅に咲いた花を持参しテーブルに飾ったり、行事や食事の工夫で利用者に喜んでもらえる支援に努めている。事業所では看取りの支援に取り組んでおり、本人や家族の意向を尊重し、手を握って寄り添うなど対応を工夫し、経験を積み重ねて知識とケアを向上させている。(感染予防の為、書面・電話聞き取りにて評価施行)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族のような暖かな雰囲気を作り、介護度が異なってもみんなで笑える家庭を作っている	会社の基本理念と事業所目標を職員の目に留まる台所の入り口に掲示して共有し、意識づけをしている。職員は目標に沿って優しい対応を心がけ、支援している。会議や毎日の申し送りや振り返り、話し合いをして、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	面会ができない状態であるが、地域の方が四季折々の花又は野菜を持ってくださり、入居者様の様子をお伝えしている	町内会に所属している。コロナ禍以前の地域交流のつながりで近隣住民から頻りに野菜や花の差し入れがある。近隣のドッグランで犬の運動会の開催があり、主催者からの勧誘で、犬好きの利用者が見に行ったり、桜の花を見に行ったりしている。近隣住民の依頼で迷子犬の張り紙を掲示して、職員が迷い犬を発見し、保護することができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多くの桜の木がある家から、桜を見に来るように声を掛けていただき天気の良い日は散歩に出かけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	本来の運営推進会議ではないが、グループホームでの生活の様子、入居退去の状況等を発信している	コロナ禍の為、家族や地域住民の参加はできていない。2ヶ月毎に、他事業所との合同開催で、管理者が集まり、活動・近況報告、看取りに関する事例報告を行っている。議事録を作成し、市へ報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター担当者と運営推進会議等で連絡を取って地域の方々へ情報を伝えている	福祉事務所とは生活保護の人の相談や連絡などを頻りに行い、事業所への来訪、面会もある。市とはケアマネが窓口となり、介護申請の手続きなどを行い、連携を図っている。市の虐待に関するリモート研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	窓の開放、玄関の開放、会社として身体拘束廃止に関する指針を作って対応している	年4回身体拘束委員会を開催し、事例検討を行い、記録にて全職員が周知・確認をしている。また、虐待の研修にも参加し、職員間で情報共有している。ミーティングなどでグレーゾーンではないか日々の対応を振り返り、話し合っている。帰宅願望があれば職員は利用者と一緒に戸外を散歩するなど対応している。利用者は自室でテレビや本を見たりしながら自分のペースで自由に過ごしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を行い特別なテーマではなく日ごろの様子疑問点などを話し合っただけで虐待につながらないように注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に成年後見制度を利用している方がおられ勉強するチャンスを生かしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居当日には十分な説明時間が取れないケースが多いため前もって書面をお渡しし確認をしていただいたり、入居後には不明な点をお聞きするようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が希望され、退居結婚される自由な機会があった	利用者からは日常生活の中で、家族や後見人からは電話や面会時に話をして外出などへの要望や意見を聴いている。利用者の結婚への意思表示から、入籍し一緒に暮らすことが出来た事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っているカンファレンスの中に会社の方針、業務の見直し等の項目を持って提案等を吸い上げるチャンスを作っている	カンファレンスで業務改善の項目を取り入れ職員から意見を聴き、清掃時のルンバ掃除機の導入などに活かしている。年間行事計画を立て、餅つきやひな祭りなどを職員が中心となり開催している。管理者は日頃から自由に意見が言える雰囲気づくりと人間関係に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	エリアマネジャーを4名配置し、細かい情報を悩み事相談など、人間関係の改善などを努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報などを休憩室にファイルをしたり見やすいところに掲示したり自己啓発する機会を持っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修情報を常に持ち知り得た研修内容をホームで勉強会に取り入れ実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のそばに寄り添って有限無限の言葉を聞いて本人の望みを理解し安心できる居場所づくりを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にインテークで、できるだけ多くの情報を取り込んで入居すると同時にスタッフ全員で取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークだけでは、現実的生活を送っていただけない為に、入居と同時にしっかりとスタッフの記録とコミュニケーションを心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除機掛け、食事の準備や食事、片付け、洗濯、洗濯干し、洗濯たたみを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	少ないながらも、年4回の和楽だよりを担当スタッフが書いて生活の様子をお伝えしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある地域の話題と行事などをテレビや新聞で読んで思い出話をしている	入居時に「生活エピソードノート」を家族が記載し、これまでの馴染みの関係を把握している。面会は家族や後見人などとコロナ禍の状況に応じて行っている。2ヶ月毎の「家族通信」では担当職員が写真を添えて日頃の様子を手書きでお知らせしている。利用者から息子に電話をしたいと要望があり、梅干を持参するよう依頼したこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	価値観の違う者同士がお互いに認め合えるようにそれぞれを尊敬の思いで接しその方々に合った話題を話しながら孤独にならないように支援をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が退去した後も、必要に応じて家族の相談などに対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個々に合った声掛けをして、表情顔色食事の摂取の状況確認しながら自己決定しやすい環境づくりをしている	思いを表出しやすいような関係作りに努め、日頃から日常生活の中でよく会話をしている。本人本位に検討して関わりを持ち、思いを汲み取っている。把握した情報は連絡ノートで情報共有し、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が安らかに自分らしく暮らしていくことを支援し愛着のあるものを身近に置き安心していただきながら生活の中でその人らしい生き方が出来るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様が一番過ごしやすい空間を作り一人でも多くの入居者様の笑顔が出るような環境づくりに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の考えではなくスタッフ同士で気付きやアイデアを出し合い話しあった結果をもとに作成している	本人と家族から情報収集し、会議で目標や援助項目を話し合い、最終的にケアマネが介護計画を作成している。ケアマネは利用者の状態の把握に努め、状態に応じてその都度モニタリングや見直しを行い、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の生活リズムを知り少しでも動き方に変化があれば記録に残しスタッフ間で共有し介護計画の見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	犬の大好きな入居者様の為に、近くのドックランに見学(散歩)に行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の利用を以前から計画しているが、新型コロナ禍の為、再度検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医師、看護師とスタッフが密にいつでも連絡を取り合い家族や入居者様が納得のいくように支援している	本人と家族の意向を大切に、希望のかかりつけ医とし、従来のかかりつけ医を継続することも出来る。協力医の往診が2週間毎にある。夜間・緊急時はエリア長に連絡し、看護師や病院の指示に従い、適切な医療を受けられるように支援している。毎週歯科の往診があり、他科受診は家族で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の入居者様の変化を看護師に報告相談して適切な対応をするように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には治療が終わり次第出来る限り早期の退院が出来るように病院と連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今期は、2名の方が看取り対応となり、利用者様・ご家族にそった終末を全スタッフが迎える事ができた	重度化した場合は看護師を交えて会議を開催している。医師の意見も取り入れて対応を検討し、本人や家族の意向に寄り添った対応を心がけている。寂しくて職員を呼ぶ看取りの人に対して、居室で職員も一緒に過ごせるよう工夫し、手を握るなどしていつもそばで寄り添い、安心感が得られるよう支援に努めた。看取りの経験を会議で報告し、職員の不安の軽減と育成を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	万が一の対応の為AEDを設置しいつでも利用できるように体験勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者様と避難訓練を実施している また、運営推進会議で地域の住民の方々への協力を呼び掛けている	年2回消火避難訓練を行い、避難通路や誘導方法、消火訓練などの確認をしている。訓練の内容は職員で情報共有している。災害発生時には地域住民の協力体制が得られる。他施設と協力し、備蓄の確保はできている。	避難訓練後に職員の意見などの振り返りを資料としてまとめ、今後に活かされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の気持ちの思いを傾聴しながら尊厳やプライバシーの配慮を心かけた対話に努めている	一人ひとりの人格を尊重したその人らしい生活を基本として支援している。本人にとって嫌なことは聴かないように配慮している。居室の入り口に防火カーテンを設置し、1人での入浴や同性介護を行うなどで羞恥心やプライバシーを損ねない対応をしている。基本的な食事時間は設けているが、利用者が満足できるよう自由な時間でも食事をすることが出来るよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添う中で自分の望みを話されることがあり、その事柄を他の職員と共有し自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活を尊重しながら和やかで張りのある日常生活を送って頂けるよう配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴し清潔を保持し好みに合った清潔な服を着用していただくようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が楽しみながら食事ができるように楽しく語らいながら共に食事をするよう努めている	食事は職員が手作りし、「ご飯美味しいよ」と言う利用者もいる。巻きずしを作るのが得意な職員がおり、お寿司好きの利用者にとって誕生日や行事食が食事の楽しみとなっている。正月のおせちやお雑煮も喜ばれている。利用者は食後にお膳を拭いたり、元板前の人に味見のお願いや調理を教わることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好を考慮しながら栄養量、水分量を顔色、表情、体調を観察しながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた支援をしている 毎食後必ず口腔ケアの声掛けをしている、また、歯磨きがきちんときれいに行われているかチェックさせていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録し一人一人の排泄パターンを確認しながら誘導や声掛けをしている 一人一人の人格を尊重しながら支援している	日中はほとんどの人がトイレを利用し、夜間は利用者の状態によって対応している。排泄時は見守りや一部介助で羞恥心やプライバシーに配慮している。基本、綿パンツを使用し、多少の汚染でも寝衣更新し本人の気持ち良さを優先する支援をしている。トイレでの排泄を維持する工夫としてラジオ体操を行い、筋力低下の防止に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳等を取り入れ水分の摂取を記録しながらしっかり摂取していただいている、栄養バランスの良い食事にも努力し便秘予防を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人で入浴できる方には見守りをして安心して入浴していただいている、一部介助、全介助、一人一人の状態、希望を考えて対応し気持ち良い入浴支援を行っている	週3回入浴の支援をしている。一人でも入浴できるように見守りで対応し、香りを楽しめるように入浴剤を使用している。入浴を嫌がられる人には声かけや職員の交代で工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくホールに出てきて活動を促し夜間良眠出来るよう生活リズムを整える支援をしている一人一人の体調を考慮し安眠や休息の支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成していつでも情報を確認できるようにしている 服薬時は職員が二人で確認したうえで必ず手渡しをして飲まれるまで目配りをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びや日々の楽しみなど気分転換の支援を心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ禍、ドライブが主の外出では海の見える景色の良い場所でアイスクリーム又はタイ焼きを食べていただき危険のない対応をしている	近くのドッグランを散歩している。春には花を見に行き、秋には紅葉狩りに閑谷学校までドライブに出かけ、帰り道ではたい焼きを食べて外出を楽しむこともあった。家族が同行して他科受診を行い、帰りにランチに行ったり、自宅で昼食を食べたりと個別的にでかけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望等に応じて外出時に使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に年賀状を出したりいつでも電話をつないでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には季節にあったお花を生けたり、貼り絵をしていごごちの良い空間を作っている	ホールには大型テレビ、本棚、カラオケセットなどが設置され、利用者はゆったりとしたソファに座り、くつろいだり昼寝をして自由に過ごしている。季節に応じて雛人形などを飾り、机上には観葉植物を置いて、家庭的な雰囲気を工夫している。加湿器の設置や清掃・整頓で環境整備に努め、居心地よく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分ではテレビ、カラオケ、CD等を流して一人一人の希望をかなえている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みを尊重し特に移動時には障害とならないよう安全を心掛けて、必要以上の物は置かないよう配慮している	本人が自宅で使い慣れた品々や木製のダンス・籐の椅子・仏壇・冷蔵庫・テレビなどが利用者に応じて持ち込まれている。担当職員は利用者の暮らしぶりを把握し、居室の整理を行い、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を最大限生かせるよう補助用具を活用したりきめ細かい見守り等で生活環境に応じた支援を行っている		

目標達成計画

作成日: 2022 年 6 月 19 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	67	入居者に対する言葉遣いが威圧的な事がある。	入居者様一人ひとりを尊重し優しい声掛けをする。	職員同士で注意しあえる関係作りをしていく。	3か月
2	60	戸外に出掛けたいという入居者様の要望に応えられないことがある。	入居者様、個々の希望を聞き、戸外へ出掛けられるよう支援する。	コロナ感染対策をしっかりとし、近くへの散歩から出来るようにする。	3か月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()